

ISSN 0910-2396

野鳥だより

—北海道—

北海道野鳥だより第180号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成27年6月21日

ジョウビタキ



2015. 3. 30 石狩市 はまなすの丘公園

撮影者 中村 隆 (札幌市南区)



も く じ

北海道初記録！ヤドリギツグミ
川上郡弟子屈町「鱒や」 橋 利器 …………… 2
長都沼周辺でタゲリが越冬 千歳市 若松久仁男 …………… 3
シルバ通信⑥ 耕作放棄地の価値を再考する ―湿地性鳥類を例に―
北海道大学農学院 森林生態系管理学研究室 埴岡 雅史 …………… 4
鳥の名前の話 -その2-
森林総合研究所北海道支所 川路 則友 …………… 5
道内各地でノハラツグミの観察記録 広 報 部 …………… 7
2014年度 北海道野鳥愛護会探鳥会記録 (2014.4~2015.3) …………… 8
平成27年度 総会報告 …………… 11
探鳥会 ほうこく …………… 13
表紙の鳥 (ジョウビタキ) 札幌市南区 中村 隆 …………… 15
探鳥会あんない・鳥民だより …………… 16

北海道初記録！ヤドリギツグミ

川上郡弟子屈町「鱒や」 橋 利器

東京から移住してきて、1994年から弟子屈で「鱒や」という屋号で旅人相手の小さな宿を営んでいます。私自身はバードウォッチャーなどと呼べる域にはとても達していない、野鳥を見るのがただ大好き、というレベルなのですが、時間があれば野山に出掛けて野鳥や野生動物を観に行き写真を撮っています。そんな写真を宿のブログ (<http://troutinn.exblog.jp>) に載せているうちに、だんだんと野鳥や野生動物を観たり撮ったりするお客さんが増えてきました。

2015年2月25日の朝のことです。前々日に「鱒や」に泊って、庭に来るシマエナガやモモンガを撮っていたベテランバードウォッチャー3人組からメールが入りました。何度か来ていただいているお客様達で、その朝は羅臼で船に乗っているはずなのです。メールには「昨日(24日)の朝9時半頃に屈斜路湖の砂湯にヤドリギツグミが出たそうです。今日も居るかどうか、できれば見てきてほしい」とあります。

実はヤドリギツグミという鳥の名前すら知りませんでした。ですが非常に珍しい迷鳥とのことですから、朝食の片付けを終えると直ぐに砂湯に向かいました。情報の翌日の9時半でしたから最初に見つけられてから24時間経っています。どんな姿の鳥なのかすら知らないのですが、今までに見たことがないタイプのツグミっぽい鳥が居たら、それがヤドリギツグミでしょう。姿が判らずとも居るであろう場所は見当がついていますので真っ直ぐ向かいます。

屈斜路湖畔の砂湯は、湖畔の砂浜を掘るとすぐに湯が沸き出してくる湖畔で一番の観光地で、冬の間もオオハクチョウが餌付けされていることもあって観光客が多く訪れます。ここでは砂浜だけでなくキャンプ場や駐車場の周りまで一帯の地熱が高く、少しの雪ならすぐに溶けてしまいます。一面の雪景色でもここだけは、かなり広い範囲で地表が何時も出ていて枯葉の落ちた秋のままです。もちろ

ん地面が凍ることもありませんから、餌を探しやすいのでしょう、ここへ行くとツグミやミヤマカケス、シメなどを真冬でも簡単に見ることが出来る場所なのです。

砂湯の駐車場に車を駐めて、この辺りだろうとキャンプ場へ入っていくと、そこにヤドリギツグミが居ました。歩いて探し始めて僅か1分ほどでした。双眼鏡で観察するとツグミよりちょっと大きくてスマートな、ほんの少し緑があった灰色の羽の、でも姿はツグミの仲間であることで間違いようがないです。キャンプ場の枯れた草地の地面を盛んに突いて掘り返しています。3人組に「居るよ」とメールで報告しました。

ヤドリギツグミはツグミと一緒に群れで行動しているようでもなく、単独で枯葉の地面をクチバシで掘り返しながらエサになる虫を探し回っているように見えました。警戒心もそれほど強いようでもなく、こちらが静かに動かずにしていると10メートルくらいまでヤドリギツグミの方から近づいて来ることもありました。

メール添付で送った写真を見て、午後にはベテランバードウォッチャー3人も大急ぎで知床から戻ってきて、一緒に撮影しました。



2015. 2. 26 屈斜路湖畔砂湯

日本でのヤドリギツグミの記録は過去4回なのだそう
す。1984年の名古屋、98年の福岡県相ノ島、99年の石川
県舩倉島、昨年の三重県紀宝町です。今回の屈斜路湖砂湯
は5例目で、もちろん北海道では初めてということになり
ます。驚くことにベテラン3人組は、1日しか出なかった
舩倉島以外の過去3回を見ているというのです。

30年前と一緒に名古屋の公園に観に行ったのは愉しかっ
たよね。と話ながらヤドリギツグミを見ている3人が、今
回たまたま屈斜路湖に数日だけ現れたヤドリギツグミに居
合わせる、偶然という幸運の強さとか、野鳥の世界で
は中にとんでもないバードウォッチャーの人達が居るなど
いうのは気づいてはいましたが、この3人も超の字が付く
ような人達なのでした。

弟子屈はこの冬は異常と呼べるほどの大雪でした。道内
全体としては少雪だったのですが、弟子屈は毎週、猛吹雪
に襲われていました。私は翌26日にも、もう一度ヤドリギ
ツグミを観て、その後は噂が広まったのでしょうか、観に来
る人も多くなったようです。が、2月27日と3月2日に
は、またも弟子屈では猛吹雪になって大雪が降って、さす



がの砂湯周辺も雪で覆われてしまい地表は全く見えな
くなってしまいました。これでヤドリギツグミはどこかへ
行ってしまったようです。その後も砂湯を通りかかる度に
捜してみましたが、もう見ることはありませんでした。

バイカル湖から西方、ヨーロッパや北アフリカに居るは
ずのヤドリギツグミが何故、真冬のこんなに寒い屈斜路湖
に迷って来てしまったのか不思議です。今回は貴重な情報
をお客様達から頂いて、これまでの記録の例から考えて
も、たぶんもう二度と観ることがないであろう出会いが
出来たのでした。

長都沼周辺でタゲリが越冬

千歳市 若松 久仁男

北海道では旅鳥とされているタゲリですが、2014年11月
から2015年3月にかけて、千歳市と長沼町の境界に位置す
る長都沼周辺で1羽が越冬していたのを観察しました。図
鑑によると、日本での越冬地は本州中部以西となっています。
過去に道内での越冬記録があるかどうか調べてみまし
たが、分かりませんでした。おそらく初めてではないかと
思っています。

長都沼には、毎年3月から4月に飛来するタゲリです
が、2014年11月9日に長都沼の近くで見たとという情報があ
り、秋に寄って行くのは珍しいことだと思っていました。
その後、11月24日に沼の上を飛んで行くタゲリを見つけま
した。11月初めに目撃されたのは、成鳥が2羽だったと聞
いていたので、別個体のようです。

12月に入ってから沼で採餌しているのを度々目撃し、
年が明けて1月に入ってから何度か見かけました。さす
がに雪が積もり沼の縁が凍ってしまうと、見かける頻度は
減ってしまいましたが、暖かく氷の融けるような日には様
子を見に来ていたようです。寒い日が続き、なかなか沼に
姿を見せなくなっていたのですが、近くの畑の堆肥置き場
で採餌しているを見つけました。暖かい堆肥置き場は、
雪が積もっても直ぐに融け、餌となるミミズも豊富なよう
でした。

2月中旬になって少し気温が上がり沼の縁が顔を出し始
めたら、沼に降りている姿を見かけるようになりました。
3月に入っても沼と堆肥置き場を行き来していましたが、
氷の融ける範囲が広がってくると沼で過ごす時間が長くな



2014. 12. 20 長都沼

りました。

沼で最後に確認できたのは、3月27日でした。その後、
4月1日に3kmほど離れた隣の遊水池にいるのを見つ
けました。移動する途中で寄り道したのか、居場所を移し
たのか分かりませんが、沼での越冬生活は終わったよう
です。約5ヶ月の越冬観察でした。

長都沼の周辺には、オオタカやノスリなどの猛禽類も現
れます。カラスにもよく虐められていましたが、1羽だけ
でよく無事に越冬できたものだと感心しました。沼周辺を
餌場とし、おそらく千歳川の川原辺りをねぐらとして越冬
していたのではないかと考えています。まだ冠羽が短く第
一回冬羽の若鳥ではないかと思われるので、渡りの途中で
仲間とはぐれてしまい、やむを得ず越冬することになった
のかもしれない。暖冬のせいでも長都沼がなかなか凍らな
かったのと、沼が凍っても近くに堆肥置き場という良い餌
場があったので無事越冬できたのでしょう。

これからも意外な鳥が、温暖化などの影響で越冬するか
もしれませんね。

シルバ通信⑥

耕作放棄地の価値を再考する

—湿地性鳥類を例に—

北海道大学農学院 森林生態系管理学研究室 埴岡 雅史

突然ですが、今回は皆さんに「耕作放棄地」というものについてご紹介したいと思います。耕作放棄地とは、「以前耕作地であったもので、過去1年以上作物を栽培せず、しかもこの数年の間に再び耕作する考えのない土地」のことを指します。確かに人間の側から見ると、農地としての利用ができなくてあまり価値のない土地だと思われるかもしれませんが、鳥類の視点に立ってみると、その考えは一変します。耕作放棄地の中では、ノビタキやコヨシキリなど、多くの鳥たちが頻繁にさえずり、ときにはタンチョウの親子が姿を見せてくれることもあります。

これらの鳥類は、本来は主に湿地に生息しています。しかしながら、湿地は宅地や工業用地、耕作地などへの転換が進み、その面積はここ最近の100年間でおよそ6割が減少したとされています。湿地の減少に伴って、そこに生息していた鳥類もこれまで大きく減少してきたと考えられます。例えば、環境省の鳥類繁殖分布調査では、コヨシキリなど湿地を好んで生息する種の分布が減少することが示されています。一方で、耕作放棄地の面積は年々増加しており、今後も人口の減少などによって増加することが予想されています。先述の通り、耕作放棄地には様々な鳥類が生息しています。しかしながら、耕作放棄地、と一口に言ってもその面積や植生、周囲の環境は様々です。では、どのような耕作放棄地がどのような鳥類にとって適した生息地になっているのでしょうか？また、耕作放棄地はこれまで失われてきた湿地の代わりとなるのでしょうか？

私は、2014年6月に日本でも有数の大湿地帯である釧路湿原が存在する北海道東部の釧路地方において、面積、植生の異なる23の耕作放棄地を選び、鳥類調査を行いました(図1)。また、それぞれの耕作放棄地について、面積、内部の植生構造(樹木密度および低木の被度)、周囲の景観構造(周囲300mの湿地・草地率)を調査し、それらが各鳥類種、および鳥類群集全体にどのような影響を与えてい

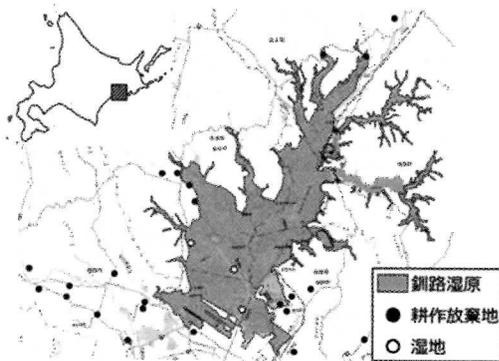


図1. 調査地の分布

るのかを推定しました。さらに、釧路湿原内に3カ所の調査地を設け、そこでも同様の調査を行って、耕作放棄地が鳥類にとってどれくらい生息に適しているのかを湿地と比較しました。調査の結果、耕作放棄地、湿地を合わせて14種の湿地性鳥類(アオジ、エゾセンニュウ、オオジシギ、オオジュリン、カッコウ、コヨシキリ、シマセンニュウ、ノゴマ、ノビタキ、ヒバリ、ベニマシコ、ホオアカ、マキノセンニュウ、モズ)が観察されました(表1)。また、

表1. 耕作放棄地と湿地の鳥類平均密度(羽/ha)

	耕作放棄地	湿地
シマセンニュウ	2.91	4.07
コヨシキリ	2.80	5.27
オオジュリン	1.72	2.73
ノビタキ	1.30	1.73
ベニマシコ	0.70	0.13
アオジ	0.48	0.73
マキノセンニュウ	0.28	1.13
ノゴマ	0.15	0.27
カッコウ	0.08	0.13
ヒバリ	0.02	0.07
エゾセンニュウ	0.10	—
ホオアカ	0.09	—
モズ	0.06	—
オオジシギ	0.02	—

解析の結果、樹木密度が中程度の耕作放棄地では湿地性鳥類の個体数が少ないことが推定されました。この理由として、樹木に対する各鳥類種の応答の違いが挙げられます。樹木の多い耕作放棄地では樹木を好む種(アオジやノゴマなど)の個体数が多く、樹木の少ない耕作放棄地では樹木を好まない種(シマセンニュウなど)の個体数が多くなります。樹木密度が中程度の耕作放棄地はどちらの種もある程度生息できるものの、その個体数はそれぞれの種が好む生息地よりも少なくなるため、全体の個体数が減少したのではないかと考えられます。さらに、周囲に湿地や草地が多い耕作放棄地では湿地性鳥類の個体数や種数が多いことも分かりました。耕作放棄地の周りに湿地や草地があると、鳥類はその場所を餌場や休息場として利用できるため、周囲の湿地や草地の存在は多くの鳥類にとって重要であることを示唆しています。

湿地との比較では、湿地15haと同程度の個体数の鳥類が生息する耕作放棄地の面積は、湿地のおよそ1.6倍であることが推定されました。この結果は、耕作放棄地は湿地ほどではないものの、湿地性鳥類の生息地としてある程度の役割を果たしているということを示しています。これまであまり注目されてはきませんでした、耕作放棄地の新たな可能性について、今後検討することが大切だと私は考えています。

鳥の名前の話 —その2—

森林総合研究所北海道支所 川路 則友

多くの図鑑等で、鳥の名前（和名）のすぐあとに続けて、斜めになった字体で訳のわからないアルファベットが並んでいるのをご存じの方は多いことと思います。これは学名と言って、一つ一つの鳥に与えられた万国共通の名前です。今回は、この学名について書いてみましたが、どうしてもアルファベットが多くならざるを得ない内容となっていました。少々、難解な表現も多くなってしまったのではないかと反省しておりますが、ご興味のある方は、読み進んで行っていただければと思います。

<学名について>

万国共通の名前をつける

もともと種類数の多い生物の仲間では、いちいち和名（もしくは現地名）を付けられていないものがたくさんあります。昆虫の仲間などがそうです。かといって、一般人にはそんなに不便に感じられないと思います。そもそも、最低限、その生物を研究している研究者どうしで通じる、ただ1種類の名前だけ付いていればいいわけで、それには和名は必ずしも役に立ちません。鳥でも世界に散らばる研究者どうしでは、和名や英名でやりとりすればお互い通じないことも多く、不便極まりないと思われまます。そこでそれぞれ一種類の鳥について万国共通の一つの名前が必要になります。万国共通の名前として「学名」という便利なものがあります。

近代の生物分類の基礎を築いたのは、ご存じスウェーデンのカール・フォン・リンネです。彼が、すべての動植物に万国共通の名前（学名）を付けることを提唱しました。これは1700年代のことです。世界に一つとして同じ名前が別に存在しないわけですから、便利ですよ。

しかし、学名というのは日本人にとって、いや外国人にとってもなかなかすぐには覚えられない名前ばかりです。というのも学名は基本的にラテン語で記載されるからです。ラテン語とは、古代ローマ帝国の公用語になっていたほど、過去の一時期には隆盛を極めた言語ですが、今では話し言葉としては「消滅した」といわれる言葉です。ただ、それが長くカトリック教会の間で書き言葉として残っていたものです。これをあえて学名に用いた趣旨は私にはわかりかねますが、その当時の知識層には重宝がられていたと推察します。いずれにしてもこのラテン語で書かれた学名さえ覚えておけば、どんなに難解な外国の本でも、ああこの鳥のことについて書かれているんだなというのが一目瞭然ですし、外国人の鳥仲間と話す場合は、学名を持ち

出すことによって、話が盛り上がること請け合いです。

学名の表し方、新種の決め方

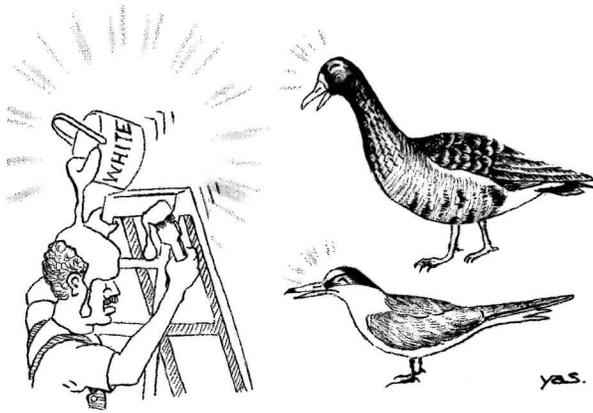
「種（しゆ）」とは、自然の分布状態ではかの集団と交雑の起こらないもの（雑種ができない）として確立された集団、というところがだいたい理解しやすい概念です。つまり、ざっくり言うと、同じ種の個体どうしは繁殖できますが、繁殖がうまくいかない集団どうしを別の種としているということです（例外はあります）。このことから、生物の基本構成単位は「種」ということになっています。また、いくつかの「種」の間に「ある共通要素」が存在する場合、それらをその上のグループとして、一つの「属（ぞく）」に含めることとします。学名は通常、属の名前（属名）+種の名前（種小名）で表されますが（二名法）、属名+種小名+命名者名+記載年の組み合わせで表すこともあります。人間にたとえて言えば、姓（名字）+名前+名付け親の名（ゴッドファーザー？）+生まれた年というところでしょうか？ 世界に一つだけの自分の名前です。たとえば、ウズラの学名は *Coturnix japonica* Temminck & Schlegel, 1849 となっています。最初の *Coturnix*（コトルニクス）が属名で、次の *japonica*（ヤポニカ）が種小名です。Temminck & Schlegel（テミンクとシュレーゲル）とは、このウズラを最初に名付けた研究者2人の名前で、1849は彼らが最初に論文でウズラを発表した年、ということです。この元となった標本は、ドイツの医者であり博物学者でもあった有名なシーボルトが江戸時代後期に日本で収集したもので、彼らがシーボルトの収集標本をまとめて記載した「ファウナ・ヤポニカ（日本動物誌）」で発表したものが最初とされています。

このように鳥で新しく発見されたもの、もしくは、いまままで含まれていた種とは別のもつと判断された場合は、研究者は「新種」として学術雑誌や鳥類目録等に詳しく記載し、新しい種名を付けて発表します。それは、それ以降の人（研究者）に認められる場合もありますし、認められない場合もあります。これは同じ鳥でも各国の鳥類目録、図鑑で学名が異なっているものがあることからわかります。また新種として記載するにあたっては、そのもつととなった鳥の標本をしっかり保管することが求められます。それは、のちにその説が信用できるかどうか確かめる人が出てきた場合に必要だからです。その標本をタイプ（模式）標本といいます。もちろん、種は一つの集団ですから、何も1個体だけをタイプ標本にしなくても、と思われるかも知れませんが、分類学の世界では、タイプ標本は命より大

事なもの（よう）です。また学名は同じものが別の種に付けられては非常に混乱しますので、「国際動物命名規約」という厳しい約束事にしたがって、一日でも早く発表した人が提唱した名前が有効になります。

学名の楽しみかた

学名のうちの種の名前、すなわち種小名には、同じものが時々見られます。しかし属と組み合わせると同じものがないということです。学名の付け方にはいくつかパターンがあります。鳥について言うと、外形から名付けるやり方、たとえば、マガンの種小名は「*albifrons*」（アルビフロンズ）ですが、これは前頭部が白いことを意味するラテン語です。実はコアシシギの種小名も同じ「*albifrons*」（アルビフロンズ）です。いずれも命名者には額（ひたい）の白さが非常に印象的だったのでしょう。もちろん、両種とも属名は違います。またキアシシギの種小名は「*brevipes*」



ははは。あいつもアルビフロンズ（白額）だ。

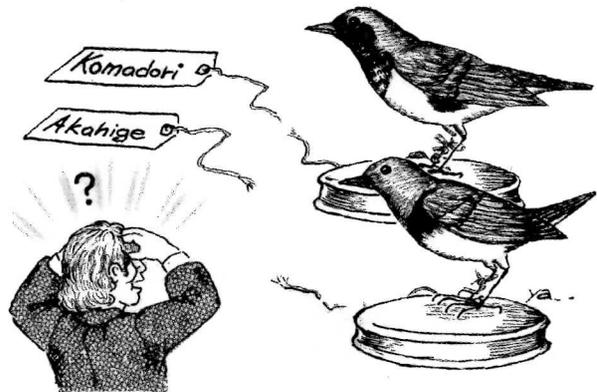
（ブレビペス）ですが、これは短い足という意味です。キアシシギにとってはとても失礼な話ですね。アカアシミツユビカモメの種小名は「*brevirostris*」（ブレビロストリス）ですが、これは短い嘴という意味になります。脚に注目するか、嘴に注目するか、目の付けどころが少し違うようです。逆にツルシギの種小名は「*erythropus*」（エリトウロプス）、すなわち赤い足という意味で、命名者がそこに注目したことがわかります。ちなみに、同じように足の赤いアカアシシギの種小名はまったく違ってきます。

人の名前を種小名に付けるやり方もあります。たとえば本誌176号に小高信彦さんが寄稿されたノグチゲラの種小名は「*noguchii*」（ノグチイ）（野口さんの）となっています。イジマムシクイもそうですが、種小名は「*ijimae*」（イジマエ）（飯島さんの）です。飯島さんというのは、日本鳥学会の初代会頭となった当時の東京帝国大学教授、飯島魁（いじま・いさお）氏のことです。飯島氏については、まだいくつも種小名として付けられたものがありました。その昔、南九州（日向国）で採集されたヤマドリによく似た鳥の標本を飯島氏が、当時親交のあったアメリカ

の分類学者、ドレッサー氏に送りました。するとドレッサー氏は、これはすでにヤマドリとして発表されていたもの（和名ではアカヤマドリ）と違い、腰の白さが際だっているのが特徴的なので、あらたに新種として記載し、それにあたって尊敬する飯島氏の名前を種小名に付けたということです（和名ではコシジロヤマドリ）。そののち、コシジロヤマドリは、ほかのヤマドリとは種の違いほどのレベルの差はないとされ、いまは亜種名に「*ijimae*」（イジマエ）が付いています。

さらにはおもな生息地もしくは発見された土地の名前を付けるやり方があります。たとえばメジロやヒレンジャクの種小名は「*japonicus (japonica)*」（ヤポニクスもしくはヤポニカ）（日本の意）ですし、コウライウグイスは「*chinensis*」（キネンシス）（中国の意）、カワラヒワも「*sinica*」（シニカ）（中国の）、コムドリは「*philippensis*」（フィリペンシス）（フィリピンの意）、アメリカヒドリは「*americana*」（アメリカナ）（アメリカの意）です。

また現地の呼び名で名付けられたと思われるものもあります。ムギマキの種小名は「*mugimaki*」（ムギマキ）です。これはうれしいですね。ただ、ちょっとした間違いで有名なものに、カンムリウミスズメの種小名である「*wumizusume*（ウミズスメ?）」があります。これは標本を採集した現地（日本）での呼び方を尊重したものでしょうが、微妙に聞き違えたと思われる。間違いといえ、もっと有名なものがアカヒゲとコマドリです。もともと江戸時代後期にシーボルトが日本で多くの鳥を収集して、オランダ・ライデン博物館に送り、当時の館長であったテミンクが多くの種に命名し、発表しています。しかしなぜかアカヒゲの標本に種小名「*komadori*」（コマドリ）、コマドリの標本に種小名「*akahige*」（アカヒゲ）と付けてしまったようなのです。おまけに、彼は論文の中で、「コマドリ」という学名を付けた鳥（図版にはアカヒゲの絵）は朝鮮半島の森に住んでおり、「アカヒゲ」という学名を付けた鳥（図版にはコマドリの絵）は琉球にいる、と記載



どうしよう。ラベルがはずれちゃったよ。どっちだったっけ？

しています。これも図版の鳥と生息地が何か逆のようですよ。ただ、一度付けられた学名はよほどの事情がない限り、修正されることはないので、今日までそのままになっています。まあ、これで混乱するのは日本人くらいなので、あまり問題はないのかもしれませんが。テミンクにしてみても、遠い極東にあるちっぽけな国の難解な現地語の話ですので、そう気にも留めなかったのでしょうか。では、なぜこのような取り違えが生じたのかについては、シーボルトが名前を聞き間違えたとか、どこかでラベルを付け間違えたとか、推測はいろいろできそうですが、真相は不明

のようです。英語名はアカヒゲが「Ryukyu Robin (リュウキュウ・ロビン)」、コマドリが「Japanese Robin (ジャパニーズ・ロビン)」なので、生息地のことを考えるとだいたい推測がつかますが、日本と海外の研究者どうし学名で呼び合う場合はさぞかし混乱しているんでしょうね。ちなみにRobin (ロビン)とは、ヨーロッパで非常に身近なコマドリ(ヨーロッパコマドリ)のことです。

(つづく)

※ イラスト / 本間 康裕

道内各地でノハラツグミの観察記録

広 報 部

希な鳥とされているノハラツグミについて、昨年発行した「北海道野鳥だより」176号で札幌市及び江別市での3個体の観察記録を掲載しました。今年も愛護会会員の報告等から観察記録6例を広報部で把握したので報告します。

その1：2015年1月11日、札幌市手稲区三樽別川公園で山本昌子さん(愛護会会員)がツグミの中にノハラツグミと思われる1羽を発見。急いで友人に連絡して写真を撮ってもらいノハラツグミと確認しました。この個体はハイタカに同日捕食されたそうです。

その2：同年1月16日、樺戸郡新十津川町内のふるさと公園内で岸谷美恵子さん(愛護会会員)が単独行動でナナカマドの実をついばんでいる個体を観察しました。この個体は2月23日まで滞在していました。

その3：同年2月11日、先崎理之さん(愛護会会員)が江別市野幌で1羽を観察しました。道道江別恵庭線沿いのナナカマド並木で、ツグミ数十羽とともにわずかに残る実を

ついばんでいたそうです。翌日以降は観察されていないとのこと。

その4：同年2月17日、枝幸郡中頓別町のペーチャン川(頓別川支流)で田辺 毅さん(日本野鳥の会道北支部会員)が1羽を観察しました。当時の川面は少し開きかけた状況で、雪氷の上でセッケイカワゲラと思われる虫を捕食。単独行動でした。行動範囲は川の上を中心に2~300m程度の移動で、人が近づいてもあまり逃げようような感じではなく、河畔林の枝にも止まっていたそうです。17日から10日間近く滞在した模様です。

その5：ブログ「道東の野鳥情報」に掲載された記事によると、同年2月25日、風蓮湖走古丹周辺で根室自然野鳥観光推進員有田茂生さんがツグミと2羽で行動するノハラツグミを観察。雪解けた地面で採餌していたそうです。

その6：同年2月27日、上川郡東川町キトウシ森林公園前で大阪徳美さん(愛護会会員)が赤い実(ズミ)をついばんでいる個体を観察しました。ツグミ3羽と行動を共にし、5分ほど採餌しては奥の林に引っ込み1時間以内には採餌にやってくるということを繰り返していたそうです。3月1日までの3日間観察されたとのこと。

この6例中、同一個体が別の場所で観察された可能性も否定できませんが、観察時期が重複している事例はそれぞれ別個体だと思われます。ひと冬でこれほど多く観察されたということは特筆すべきことです。今年だけのことなのか、それとも増加しているのか、今後のノハラツグミに注目したいと思います。



ノハラツグミ 2015.2.27 旭川市 大阪徳美さん撮影

2014年度 北海道野鳥愛護会探鳥会記録(2014.4~2015.3)

科・種名	探鳥地	モエレ沼	宮島沼	野幌森林公園	野幌森林公園	藤の沢	千歳川	鶴川河口	野幌森林公園	植苗ウトナイ	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	鶴川河口	野幌森林公園	いしかり調整池	宮島沼	野幌森林公園	野幌森林公園	ウトナイ湖	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数	
	月日	4/20	4/27	4/29	5/4	5/6	5/18	5/25	5/31	6/1	6/8	6/15	6/29	7/13	8/24	8/31	9/7	9/14	10/5	10/12	11/2	11/9	12/7	1/18	2/1	3/1	3/22		
キジ科																													
キジ								●																				1	
カモ科																													
ヒシクイ		●																	●			●					●	4	
マガン		●																	●			●					●	4	
カリガネ		●																	●									2	
ハクガン																						●						1	
シジュウカラガン		●																	●									2	
コクガン																								●				1	
コブハクチョウ										●																	●	2	
コハクチョウ		●														●							●					3	
オオハクチョウ		●						●								●							●				●	4	
オシドリ				●	●		●					●						●			●							6	
ヨシガモ		●																					●				●	3	
ヒドリガモ		●	●																●		●	●					●	6	
アメリカヒドリ		●																										1	
マガモ		●		●	●	●	●	●				●	●			●	●		●	●	●	●		●		●	17		
カルガモ		●	●	●	●			●							●	●			●	●							●	10	
ハシビロガモ		●																										2	
オナガガモ		●																					●				●	4	
コガモ		●	●	●	●													●		●	●	●						8	
ホシハジロ		●																							●			2	
キンクロハジロ		●	●	●			●												●	●	●			●			●	8	
スズガモ			●																●	●					●			4	
シノリガモ																									●			1	
ビロードキンクロ																									●			1	
クロガモ								●																				1	
コオリガモ																									●			1	
ホオジロガモ																							●	●		●		3	
ミコアイサ		●																					●				●	3	
カワアイサ		●					●	●															●				●	5	
ウミアイサ																								●				1	
カイツブリ科																													
カイツブリ		●		●	●												●		●	●	●							7	
アカエリカイツブリ																								●				1	
カンムリカイツブリ															●									●				2	
ミミカイツブリ																								●				1	
ハジロカイツブリ																			●			●		●				3	
ハト科																													
キジバト		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●		●								16	
アオバト												●		●															2
アビ科																													
アビ																									●			1	
オオハム																								●				1	
シロエリオオハム																								●				1	
ウミツバメ科																													
ハイイロウミツバメ																								●				1	
ウ科																													
ヒメウ																								●				1	
カワウ			●												●			●						●				3	
ウミウ								●							●	●								●				4	
サギ科																													
アオサギ		●	●			●	●	●		●	●		●		●	●		●	●			●				●		14	
ダイサギ		●						●								●		●				●				●		6	
チュウサギ																						●						1	
クイナ科																													
バン		●																										1	
オオバン		●																					●					2	
カッコウ科																													
ツツドリ							●		●	●		●		●														5	
カッコウ									●	●		●																3	

科・種名	探鳥地	モエレ沼	宮島沼	野幌森林公園	野幌森林公園	藤の沢	千歳川	鶴川河口	野幌森林公園	植苗ウトナイ	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	鶴川河口	野幌森林公園	いしかり調整池	宮島沼	野幌森林公園	野幌森林公園	ウトナイ湖	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数
	月日	4/20	4/27	4/29	5/4	5/6	5/18	5/25	5/31	6/1	6/8	6/15	6/29	7/13	8/24	8/31	9/7	9/14	10/5	10/12	11/2	11/9	12/7	1/18	2/1	3/1	3/22	
チドリ科																												
コチドリ								●		●																	2	
メダイチドリ															●	●											2	
シギ科																												
ヤマシギ										●																	1	
オオジシギ											●																1	
タシギ	●																										1	
オグロシギ																●		●									2	
チュウシャクシギ								●										●									1	
コアオアシシギ																		●									1	
アオアシシギ																●											1	
タカブシギ																●	●		●								2	
ソリハシシギ															●	●											2	
インシギ															●	●											1	
トウネン								●							●			●									3	
ヒバリシギ																		●									1	
ハマシギ																●											1	
カモメ科																												
ユリカモメ																								●			1	
ウミネコ								●				●			●								●				4	
カモメ	●	●																					●			●	4	
ワシカモメ																							●				1	
シロカモメ																							●			●	2	
セグロカモメ																						●	●				2	
オオセグロカモメ								●							●	●						●	●		●		6	
ニセセグロカモメ																							●				1	
ウミスズメ科																												
ハシブトウミガラス																							●				1	
ウミガラス																							●				1	
ケイマフリ																							●				1	
ウミスズメ																							●				1	
コウミスズメ																							●				1	
ミサゴ科																												
ミサゴ	●														●	●											3	
タカ科																												
トビ	●	●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23
オジロワシ		●					●		●						●	●						●	●	●	●	●	9	
オオワシ																							●			●	2	
チュウビ															●			●				●					3	
ハイタカ	●																										1	
オオタカ		●					●								●								●				4	
ノスリ	●	●			●																						4	
フクロウ科																												
フクロウ																							●				1	
カワセミ科																												
カワセミ	●				●	●						●						●									5	
キツキ科																												
アリスイ	●	●																									2	
コゲラ			●	●	●	●				●		●			●			●	●		●	●	●	●	●	●	12	
オオアカゲラ			●									●										●	●		●	●	5	
アカゲラ	●	●	●	●	●	●			●		●	●					●		●	●	●	●	●	●	●	●	16	
クマガゲラ																						●	●		●	●	2	
ヤマゲラ																						●			●		2	
ハヤブサ科																												
ハヤブサ								●							●			●					●				4	
モズ科																												
モズ	●									●								●	●								4	
カラス科																												
カケス						●											●				●	●		●	●	●	5	
ハシボソガラス		●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15
ハシブトガラス	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	25
キクイタダキ科																												
キクイタダキ			●		●															●				●			4	

科・種名	探鳥地	モエレ沼	宮島沼	野幌森林公園	野幌森林公園	藤の沢	千歳川	鶴川河口	野幌森林公園	植苗ウトナイ	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	鶴川河口	野幌森林公園	いしかり調整池	宮島沼	野幌森林公園	野幌森林公園	ウトナイ湖	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数
	月日	4/20	4/27	4/29	5/4	5/6	5/18	5/25	5/31	6/1	6/8	6/15	6/29	7/13	8/24	8/31	9/7	9/14	10/5	10/12	11/2	11/9	12/7	1/18	2/1	3/1	3/22	
シジュウカラ科																												
ハシブトガラ		●		●	●	●	●			●				●			●			●	●	●	●		●	●	●	15
コガラ						●															●					●	●	3
ヤマガラ				●	●	●	●					●		●				●			●	●	●		●	●	●	12
ヒガラ		●		●	●	●	●											●			●	●	●		●	●	●	11
シジュウカラ		●		●	●	●	●			●	●	●		●				●			●	●	●	●	●	●	●	17
ヒバリ科																												
ヒバリ			●					●			●		●		●	●												6
ツバメ科																												
ショウドウツバメ								●					●			●												3
イワツバメ							●																					1
ヒヨドリ科																												
ヒヨドリ		●		●	●	●	●			●				●				●			●	●	●	●	●	●	●	16
ウグイス科																												
ウグイス				●	●	●	●		●	●		●	●	●					●									10
ヤブサメ				●	●	●	●		●	●		●	●	●							●							9
エナガ科																												
エナガ				●																	●				●			3
ムシクイ科																												
エゾムシクイ							●																					1
センダイムシクイ				●	●	●	●			●		●	●	●														7
メジロ科																												
メジロ				●		●	●														●							5
センニュウ科																												
エゾセンニュウ										●																		1
ヨシキリ科																												
オオヨシキリ										●	●																	2
コヨシキリ								●		●	●		●			●												5
ゴジュウカラ科																												
ゴジュウカラ				●	●	●	●							●			●				●	●	●	●	●	●	●	13
キバシリ科																												
キバシリ				●	●	●	●														●	●		●				7
ミンサザイ科																												
ミンサザイ																					●				●			2
ムクドリ科																												
ムクドリ		●									●																	2
コムクドリ								●			●		●															3
ヒタキ科																												
トラツグミ						●	●		●	●		●																5
クロツグミ						●	●		●	●		●																1
シロハラ																						●						1
アカハラ											●																	1
ツグミ		●																				●		●	●	●		5
コマドリ				●																			●					1
ルリビタキ																						●						1
ノビタキ		●	●					●		●	●		●		●	●												8
イソヒヨドリ																								●				1
コサメビタキ																												1
キビタキ							●		●	●		●		●														5
オオルリ						●	●		●	●		●		●														5
スズメ科																												
ニューナイスズメ				●	●	●		●			●						●											6
スズメ		●				●		●		●	●		●		●	●								●		●		10
セキレイ科																												
キセキレイ						●	●																					2
ハクセキレイ		●	●			●	●	●		●		●				●		●						●			●	11
アトリ科																												
アトリ																							●		●	●		3
カワラヒワ		●	●	●	●	●	●		●	●		●		●	●		●		●		●	●			●	●	●	17
マヒワ																					●		●			●		3
ベニヒワ																										●		1
ハギマシコ																								●				1
ベニマシコ		●					●			●		●															●	5
イスカ					●																							1

科・種名	探鳥地	モエレ沼	宮島沼	野幌森林公園	野幌森林公園	藤の沢	千歳川	鶴川河口	野幌森林公園	植苗ウトナイ	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	鶴川河口	野幌森林公園	いしかり調整池	宮島沼	野幌森林公園	野幌森林公園	ウトナイ湖	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数
	月日	4/20	4/27	4/29	5/4	5/6	5/18	5/25	5/31	6/1	6/8	6/15	6/29	7/13	8/24	8/31	9/7	9/14	10/5	10/12	11/2	11/9	12/7	1/18	2/1	3/1	3/22	
ウン																							●		●	●	3	
シメ				●		●																			●	●	4	
イカル														●								●					3	
ホオジロ科																												
ホオジロ						●																					1	
ホオアカ								●			●		●		●	●											5	
カシラダカ		●																		●							2	
ミヤマホオジロ																							●				1	
アオジ		●	●	●	●	●				●	●	●		●			●		●	●							13	
クロジ							●																				1	
オオジュリン		●						●					●														3	
ハト科(外来種)																												
カワラバト(ドバト)								●														●		●			3	
観察種数		43	28	31	24	31	36	32	8	27	22	18	21	20	20	30	21	19	22	28	26	32	18	46	21	22	27	
参加者数		41	34	56	23	24	37	27	15	29	21	19	42	30	34	42	22	52	27	40	24	31	26	33	25	41	23	

※1 宿泊探鳥会を除き、26回実施
 ※2 総観察種43科157種、1回平均25.9種(前年度:42科138種、1回平均23.2種)
 ※3 延参加者数818人、1回平均31.5人(前年度:666人、1回平均29.0人)

平成27年度 総 会 報 告

日 時：平成27年4月13日(月) 18:30~20:00
 場 所：かでの2・7 110会議室
 小堀焔治会長の挨拶のあと、議長に戸津高保氏を選出した。議案審議のうえ、原案どおり可決、承認された。

(2) 北海道野鳥愛護会ホームページの維持・運営〔探鳥〕
 (1) 探鳥会26回(宿泊探鳥会を除く) 1回平均31.5人
 (2) 宿泊探鳥会 平成26年5月10日(土)~11日(日) 十勝(1泊2日) 参加者46名

〔議事〕

1. 平成26年度事業報告

〔総務〕

- (1) 野鳥写真展の開催
 期 間：平成26年5月15日(木)~5月28日(水)
 場 所：札幌市男女共同参画センター(北8西3) エルプラザ4階 多目的スペース
 出 展：17名 34点
- (2) 「北海道野鳥だより」の発送(176号~179号)
- (3) 野幌森林公園自然ふれあい交流館写真展
 期 間：平成26年6月3日(火)~6月29日(日)
 出 展：17名 34点
- (4) 新年講演会・野鳥写真映写会の開催
 日 時：平成27年1月10日(土) 13:30~16:00
 場 所：かでの2・7(北2西7)520研修室
 講 師：長谷川 理氏(エコ・ネットワーク)
 演 題：「大型カモメの種分化とオオセグロカモメの都市生活」
 参加者：48名(写真提供者4名)
- (5) 北海道野鳥愛護会名入りカレンダーの作成・販売
- (6) 定例幹事会の開催(各月1回、計12回)
- (7) 障害保険の更新

2. 平成26年度決算報告

平成26年度決算書(別掲のとおり)

3. 会計監査報告

村野紀雄、吉中宏太郎監事から適正に処理されている旨の報告があった。

4. 平成27年度事業計画

〔総務〕

- (1) 野鳥写真展の開催
 期 間：平成27年5月12日(火)~5月25日(月)
 場 所：札幌市男女共同参画センター(北8西3) エルプラザ4階 多目的スペース
- (2) 野幌森林公園自然ふれあい交流館写真展
 期 間：平成27年6月2日(火)~6月30日(火)
- (3) 「北海道野鳥だより」の発送(180号~183号)
- (4) 新年講演会・野鳥写真映写会の開催
 日 時：平成28年1月9日(土) 予定
- (5) 北海道野鳥愛護会名入りカレンダーの作成・販売
- (6) 定例幹事会の開催(各月1回、計12回)
- (7) 障害保険の更新

〔広報〕

(1) 「北海道野鳥だより」176号~179号の発行

〔広報〕

(1) 「北海道野鳥だより」180号~183号の発行

(2) 北海道野鳥愛護会ホームページの維持・運営
〔探鳥〕

- (1) 探鳥会26回 (宿泊探鳥会を除く)
- (2) 宿泊探鳥会 平成27年6月13日(土)~14日(日)
サロベツ原野 (1泊2日) 定員45名

5. 平成27年度予算

平成27年度予算書 (別掲のとおり)

6. 平成27年度役員人事

白澤昌彦副会長、坂井伍一探鳥幹事代表が退任し、
後任として、富川徹副会長、早坂泰夫探鳥幹事代表を
選出した。

顧問 藤巻 裕蔵

会長 小堀 煌治

副会長 戸津 高保、樋口 孝城、富川 徹

監事 村野 紀雄、吉中宏太郎

代表幹事 栗林 宏三

幹事

(総務) ◎畑 正輔、品川 睦生、清水 朋子、
竹内 強、辻 雅司、中正 憲信、
松原 寛直

(会計) ◎横山加奈子、浜野チエ子、原 美保
(探鳥) ◎早坂 泰夫、梅木 賢俊、門村 徳男、
北山 政人、後藤 義民、佐々木 裕、
佐藤ひろみ、田中 陽、富川 徹、
鷺田 善幸

(広報) ◎島田 芳郎、川路 則友、高橋 良直、
武沢 和義、道場 優、戸津 高保、
樋口 孝城、本間 康裕、道川富美子
(◎印は、各担当の代表者)

平成26年度 決算書

(収入の部)

項目	25年度決算	26年度予算額	26年度決算額	予算比(▲減)	備考
個人会費	508,000	510,000	500,000	▲10,000	前納、後納を含む
家族会費	132,000	120,000	162,000	42,000	
団体会費	10,000	10,000	15,000	5,000	
事業費 (活動収入)	41,600	45,000	13,086	▲31,914	参加費、売上金他
雑収入	22,899	7,794	97	▲7,697	利息、利子
寄付金	19,000	10,000	80,000	70,000	個人寄付
小計	733,499	702,794	770,183	67,389	
繰越金	295,549	157,206	157,206	0	
合計	1,029,048	860,000	927,389	67,389	

(支出の部)

項目	25年度決算	26年度予算額	26年度決算額	予算比(▲減)	備考
印刷費	469,558	435,000	457,766	22,766	野鳥だより印刷費他
通信費	118,434	130,000	124,572	▲5,428	会報発送費、切手代
会議費	48,700	53,000	48,000	▲5,000	幹事会、総会会場費
交通費	16,500	20,000	17,500	▲2,500	発送時交通費
消耗品費	37,120	27,000	19,695	▲7,305	インク代、封筒代、用紙代他
報償費	55,000	55,000	55,000	0	事務所費用、講師謝礼
傷害保険費	15,480	14,000	13,320	▲680	保険代
雑費	11,050	10,000	12,000	2,000	ネイチャーセンター利用料、香典他
予備費	0	116,000	0	▲116,000	
基金積立	100,000	0	0	0	
次年繰越	157,206	0	179,536	179,536	
合計	1,029,048	860,000	927,389	67,389	

平成27年度 予算書

(収入の部)

項目	27年度予算	26年度決算	増減	備考
個人会費	510,000	500,000	10,000	前納、後納を含む
家族会費	135,000	162,000	▲27,000	
団体会費	10,000	15,000	▲5,000	
活動収入	210,000	13,086	196,914	講演会、カレンダー売上、 小樽探鳥会 26年度事業費項目を含む
雑収入	464	97	367	利息他
寄付金	10,000	80,000	▲70,000	個人寄付
小計	875,464	770,183	105,281	
繰越金	179,536	157,206	22,330	
合計	1,055,000	927,389	127,611	

(支出の部)

項目	27年度予算	26年度決算	増減	備考
印刷費	435,000	457,766	▲22,766	野鳥だより印刷費
通信費	130,000	124,572	5,428	会報発送費、切手代
会議費	51,000	48,000	3,000	幹事会、総会会場費
交通費	20,000	17,500	2,500	発送時交通費
消耗品費	30,000	19,695	10,305	事務用品他
活動費	240,000	15,000	225,000	会場費、バス代、カレンダー代支払他 26年度 講師謝礼は報償費
事務所費	40,000	40,000	0	26年度報償費
傷害保険費	16,000	13,320	2,680	保険代
雑費	10,000	12,000	▲2,000	ネイチャーセンター利用料他
予備費	83,000	0	83,000	
基金積立	0	0		
次年度繰越金		179,536		
合計	1,055,000	927,389	127,611	

積立基金特別会計

(26年度収入決算)

(27年度収入予算)

項目	金額	項目	金額
積立金	600,000	積立金	600,000
一般会計より繰入	0	一般会計から繰入	0
合計	600,000	合計	600,000

会 員 数

	23. 4. 1	24. 4. 1	25. 4. 1	26. 4. 1	27. 4. 1
個人	255	256	270	257	258
家族	39	39	41	43	47
団体	3	3	3	2	2



円山公園

2015. 3. 1
札幌市中央区
白澤 昌彦

円山公園は、3月末まで公園入口を中心に大規模な整備が行われており、これまでの長年の集合場所であった公園の管理事務所も取り壊され、入り口のすぐ南側に立派な管理事務所が出来ていました。

今年の札幌の2月の気温は、異常に高く推移してきましたが、今日は寒さが戻り風も少しあって、体感温度としてはずいぶん寒く感じました。集合場所としたそばに、たまたまカツラの小木があり、コゲラやカラ類がやってきていましたが、期待の一つであるマヒワが来て餌を食べ始め幸先良いスタートとなりました。カラ類やシメを観察後池の水も水面を広げマガモのオスとメスの2羽が採餌中でした。開拓神社社務所前を通り梅園でのウソ探し、少し進むと7羽ほどが木の芽をついばんでいます。中には亜種アカウソも入っていました。時間を掛けてゆっくりと観察し、参道に入りやがて後ろの人たちがアトリを見つけました。アカマツが所どころにありじっくりと探しましたが、期待のイスカは最後まで出ませんでした。

東駐車場のところで、小鳥の群れが出たものの、たくさんの方が識別する間を与えることなく飛び去ってしまいましたが、ベニヒワを確認した人がおりました。

私は、最近、北海道にコガラが結構いるとの話を耳にしてから、ハシブトガラを見る時は尾羽をまず先に見るようにしています。ハシブトガラの尾羽は角尾で、中心部は下から見るとわずかに凹尾に見えるのです。コガラは丸尾とされ、中央部は凹尾には見えないだろうとの考えで、コガラ探しに力が入っています。今日もそのようにして観察していましたが、すべてハシブトガラでした。しかし、観察された鳥の確認の時に、ある人からコガラがいたとのこと、判断の根拠として、尾羽の形と次列風切外縁の色具合とのこと。皆さんも、これからはコガラ探しに挑戦し、ウォッチングの楽しみの幅を広げてみては如何でしょうか。

【記録された鳥】 マガモ、オオセグロカモメ、トビ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ゴジュウカラ、スズメ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、ベニヒワ、ウソ、シメ 以上22種

【参加者】 石田卓也、井上公雄、今村三枝子、白田 正、大朝暁子、奥島憲英、小俣義貴、笠井好美、川村宣子、北川博一、北山政人、栗林宏三、香内 実、小西美美枝、小島俊幸、齋藤由美子・佑朱、品川睦生、白澤昌彦、高橋きよ子、高橋貞夫・芳子、竹内 強・鱗太郎、徳田恵美、戸津高保、中正憲佑・弘子、中田勝義、野村 巖、畑 正輔、早坂泰夫、原 美保、広木朋子、辺見敦子、本間康裕、村元一字、山田甚一、山本昌子、横山加奈子、吉田慶子 以上41名

【担当幹事】 白澤昌彦、原 美保

ウトナイ湖

2015. 3. 22

【記録された鳥】 ヒシクイ、マガン、コブハクチョウ、オオハクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、アオサギ、ダイサギ、カモメ、シロカモメ、トビ、オジロワシ、オオワシ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ゴジュウカラ、ハクセキレイ、ベニマシコ 以上27種

【参加者】 白田 正、鹿野内裕子、北山政人、後藤義民、小林 誠、齋藤浩一郎・由美子・佑朱、坂井伍一、品川睦生、島崎康広、島田芳郎・陽子、蓮井 肇・茜、早坂泰夫・みどり、原 美保、樋口孝城、本間康裕、丸島道子、横山加奈子、鷺田善幸 以上23名

【担当幹事】 坂井伍一、鷺田善幸

モエレ沼

2015. 4. 19

江別市 齋藤 佑朱 (中学2年生)

僕はモエレ沼を訪れるのが初めてで、「どのような野鳥が見られるか」「初めて見る野鳥もいるのか」などここでの探鳥会をずっと楽しみにしていました。

探鳥会当日は曇りで風が少し強く寒かったですが、楽しい探鳥会になりました。

ガラスのピラミットを出発してすぐ、橋の上から見下ろすと多くのカモが見られました。僕もだいたいのカモの識別ができるようになったので、楽しく探すことができました。僕が最初に発見したのはオオバン、黒くてとても可愛らしかったです。奥の岸にはアオサギが5羽、綺麗なオレンジ色の嘴をしたアオサギもいて感動。

先に進むとあちらこちらからヒドリガモの鳴き声が。悠々と泳ぐヨシガモの姿も。ヨシガモはこんなに近くで見たのは初めてで、「嘴の上に白い部分がある」ということを教えていただきました。

上空にはトビしか現れずとても残念でした。しかし、散策路沿いの木ではクイタダキが見られ夢中で写真を撮りました。あまりの興奮で、近くにいたハシブトガラと勘違いもしてしまいました。

帰り道の公園の中では、鳴き声を頼りにヒガラを自力で見つけることができ、嬉しかったです。

いろいろな方々にたくさんのことを教えていただき、とても勉強になりました。これからもっと野鳥観察を楽しんでいきたいです。ありがとうございました。

【記録された鳥】ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、ハシブトガラ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カワアイサ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、オオバン、カモメ、オオセグロカモメ、トビ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、クイタダキ、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ノビタキ、ハクセキレイ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、アオジ、オオジュリン、ドバト

以上33種

【参加者】秋山洋子、五十嵐優幸、伊藤喜多子、井上公雄、岩井 茂、上坂 久・千幸、白田 正、川東保憲・知子、川村宣子、菊谷勝男・靖子、北山政人、栗林宏三、香内 実、齊藤浩一郎・由美子・佑朱、島崎康広、島田芳郎、杉田範男、高田征男、高橋きよ子、高橋貞夫・芳子、高橋良直、武田規子、立田節子、田中志司子、田中洋行、辻 雅司、戸津高保、中村 隆、畑 正輔、早坂泰夫、樋口孝城・陽子、美頭佳範、廣木朋子、松原寛直・敏子、丸島道子、三浦武己、村上茂夫、山本康裕、横山加奈子、吉田慶子

以上48名

【担当幹事】北山政人、樋口孝城

宮 島 沼

2015. 4. 26

【記録された鳥】マガン、カリガネ、オオハクチョウ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キジバト、カワウ、アオサギ、トビ、オジロワシ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ムクドリ、コムドリ、ノビタキ、ニュウナイスズメ、スズメ、ハクセキレイ、アトリ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン

以上27種

【参加者】阿部真美、今村三枝子、白田 正、内山英晋、川東保憲・知子、北山政人、栗林宏三、齊藤由美子・佑朱、品川睦生、島田芳郎・陽子、高倉英治・澄子、高橋良直、武田規子、田中 陽・雅子、田中さちよ、辻 雅司、戸津高保、中正憲信・弘子、畑 正輔、畠中秀昭、浜野チエ子、早坂泰夫、原 美保、樋口孝城、吉田慶子

以上31名

【担当幹事】栗林宏三、田中 陽

野 幌 森 林 公 園

2015. 4. 29

千歳市 島崎 康広

愛護会の探鳥会には何度も参加させていただいていましたが、たぶん野幌森林公園は初めて参加させていただきました。歩いたコースは大沢口からエゾユズリハコース→志文別線→四季美コース→桂コース→大沢口に戻りましたが、初夏を思わせるような暖かい好天に恵まれました。その天気が災いしたか、散歩等の方々も多く、野鳥はあまり姿を見せてくれなかったかもしれません。それでも春らしく、アオジやウグイス等がそこそこで美声を披露し、姿を現してくれました。探鳥会の鉄則(?)で、トップ集団で歩くか、最後尾集団で歩くかで当たり外れが分かりますが、今回は最後尾集団が当たりだったようで、キバシリ等をゆっくりじっくりと観察することができたようです。

途中、クマゲラが営巣しているところを通りましたが、無防備とも思えるような目立つ場所での営巣でしたが、私たちが通りかかった時には親鳥が巣穴から何度も顔を出し、周囲を警戒して外に飛び出して行きました。するとすぐに、巣が空になるのを待っていたかのように2羽のハシブトガラスが巣穴のすぐそばにやってきましたが、クマゲラにとってハシブトガラス以上に警戒して、やっかいだと思っているのは、私たち人間かもしれません。この営巣場所でも、心ないカメラマン達とのトラブルが絶えないと聞きます。野幌森林公園でも以前よりは数少なくなってしまうクマゲラですから、「なんだまたクマゲラか」と贅沢なつぶやきが探鳥会で聞かれるように、そっと巣立ちを見守ることはできないのか!?!?と思います。

途中の大沢園地でそれぞれに昼食をとりましたが、今回の主役は最後までクマゲラだったようで、昼食後の一息を入れるコーヒータイムに華を添えるBGMのように鳴き声が聞こえ、姿を見せてくれ、この先の野鳥との出会いに期待を持たせ、休憩時間の終了を促すかのようにでした。

【記録された鳥】マガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、トビ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、クマゲラ、ハシブトガラス、クイタダキ、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、キバシリ、ニュウナイスズメ、アトリ、カワラヒワ、アオジ

以上29種

【参加者】阿部真美、和泉ケイ子、井上公雄、今村三枝子、上坂 久・千幸、大朝暁子、大高喜美子、小野寺まゆみ、川村宣子、河野美智子、栗林宏三、小西美美枝、小島俊幸、齊藤由美子・佑朱、佐々木道弘、品川睦生、島崎康広、白澤昌彦、高橋きよ子、立田節子、田中さちよ、田中陽・雅子、辻 雅司、中正憲信・弘子、長野隆行、中村隆、畑 正輔・日名子・瑠偉、樋口孝城、辺見敦子、松原寛直・敏子、三井 茂、安井静子、山本康裕、横山加奈子、吉田慶子

以上42名

【担当幹事】松原寛直、横山加奈子

藤 の 沢

2015. 5. 5

札幌市南区 舘 俊忠

先日の探鳥会に参加させていただき誠にありがとうございます。当日は天気も良く、このような天気の中、野鳥を探しながら森の中を歩くのは、とてもすがすがしく気持ちのいいものでした。

昨年西岡公園でボランティア（今年の3月でボランティアを終了しました）をしていた関係で、「北海道ウォッチングガイド」を見て、藤の沢で探鳥会があることを知り、参加させていただきました。私は南区藤の沢に住んでおりますが、町内に探鳥会をすることができる場所があるのか？と思ったのが、参加をするきっかけです。また、この季節に春の山の中を一人で歩くのは、ちょっと勇気があることもあり、皆さんと散策できることも参加するきっかけの一つとなった次第です。

私は数年前から自然の中を散策することが好きで、ある団体のウォーキングや滝野すずらん公園のイベント等に参加させていただいておりました。探鳥会も自然の中を散策しながら、野鳥を見つけ、観察するという自然の中での出来事で、とても楽しい時間でした。

また、身近な所に、このような探鳥と観察できる場所があることをあらためて知ることができました。今回の探鳥会もデジタルカメラを持って、道端の野草や小鳥たちをカメラに収めることができました。とても楽しい時間を作っていただきありがとうございます。

ちょっと残念なのは、平成27年度の藤の沢での探鳥会が今回限りであることです。何度も同じ場所を訪れると、その時、その時、四季折々で、違う野鳥や野草、風景を見ることができるのではないかと思います。これからは、熊に注意しながら、何度も、そして、何年も同じ場所を尋ねたいと思います。

また、今回は野鳥会ということですが、散策路の道端にも、いろいろな野草が咲いております。この野草に気をつけながら、探鳥をすることも、自然を大切にすることとあります。自然を大切にすることが、ひいては、野鳥を守ることであり、野草を守ることもつながっていくと思いますので、探鳥・散策する際には、これらに気をつけたいと思います。



表紙の鳥

ジヨウビタキ

(カラー写真は<http://www.aigokai.org>に掲載)

夏鳥の飛来状況を把握するために出かけた「はまなすの丘公園」で撮ったものです。本州ではよく見ていたが、観察難易度の高い道内での予期せぬ出会いの瞬間は、我が目を疑ったほどの感激でした。足を運んだご褒美をいただいたのかもしれない(笑)。今後も野鳥との素晴らしい出会いを楽しみたい。

中村 隆 (札幌市南区)

今度は、南区常盤で「ときわ自然散策」というのが開催されます。いろいろな所で、自然に触れることができれば、また違った楽しみ方があるかもしれないと思いますので、いろいろな開催に参加することができればと思っております。

参加にあたりましては、いろいろとご親切にいただきありがとうございます。

【記録された鳥】 マガモ、キジバト、トビ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、モズ、ハシボソカラス、ハシブトカラス、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、ゴジュウカラ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ 以上26種

【参加者】 上坂 久・千幸、加藤茜湖、香内 実、小島俊幸、小堀煌治、品川睦生、島崎康広、高橋宣子、舘 俊忠、田中さちよ、戸津高保、中垣美代子、中正憲信・弘子、蓮井 肇、畑 正輔、早坂泰夫、樋口孝城・陽子、山口ちひろ 以上21名

【担当幹事】 小堀煌治、品川睦生

野 幌 森 林 公 園

2015. 5. 10

【記録された鳥】 オシドリ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、ツツドリ、トビ、オオタカ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ハシボソカラス、ハシブトカラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、ゴジュウカラ、キビタキ、オオルリ、ニュウナイスズメ、カワラヒワ、アオジ 以上31種

【参加者】 秋山洋子、池田敦子、井上公雄、岩崎正美・和子、落合博美、加藤茜湖、川村宣子、河野美智子、後藤義民、小西美美枝、齊藤由美子・佑朱、三戸 光、漆崎修、品川睦生、島崎康広、島田芳郎・陽子、清水朋子、杉田範男、高橋貞夫、高橋利道、武田規子、田中さちよ、辻 雅司、中垣美代子、中正憲信、長野隆行、畑 正輔、広木朋子、辺見敦子、松原寛直・敏子、山本康裕、横山加奈子、吉田慶子、吉見孝夫・紫乃、鷲田義孝 以上40名

【担当幹事】 島田芳郎、畑 正輔



【野幌森林公園】

2015年7月12日(日)、9月6日(日)
野幌森林公園も7月と9月とではそれぞれ異なる趣があります。大沢園地で昼食をとり、大沢口に戻るの
は13:00頃になります。

集 合：野幌森林公園大沢口 9:00
交 通：夕鉄バス新札幌駅発(文京台南町行)
「大沢公園入口」下車 徒歩5分
JRバス 新札幌駅発(文京台循環線)
「文京台南町」下車 徒歩5分

【石狩川河口】2015年8月23日(日)

秋の渡りのシーズンの前半に石狩浜・河口で主にシギ・チドリを楽しみます。はまなすの丘公園ビジターセンターの前から浜に出て河口まで、河口からは石狩川に沿って戻ります。全部で4kmほどの行程になります。正午近くに駐車場に戻って鳥合わせをし、センター内などで自由に昼食をとることになります。

集 合：はまなすの丘公園ビジターセンター駐車場 9:30
交 通：中央バス 札幌ターミナル発(石狩行)
終点「石狩」下車 徒歩20分

【鶴川河口】2015年8月30日(日)

鶴川河口付近の自然干潟や人工干潟でのシギ・チドリの観察が主目的です。天候次第ですが、人工干潟付近で鳥合わせをし、自由解散となります。「四季の館」に戻って館内ロビーで昼食をとられる方が大半です。館内に食堂や売店もあります。

集 合：鶴川温泉「四季の館」駐車場 9:45
交 通：道南バス 札幌駅前発または大谷地バスターミナル発(浦河行ベガサス号)「四季の館」下車

【いしかり調整池】2015年9月13日(日)

秋の渡りのシーズンに、いしかり調整池にやってくるシギ・チドリを主に観察します。また、水鳥たちを狙って猛禽類もやってきます。調整池の周りでの観察で、ほとんど移動はありません。11:30頃に鳥合わせを行い、自由解散となります。天気が良ければ管理棟の周りなどで昼食をとることになります。

集 合：いしかり調整池駐車場 9:30
交 通：公共の交通機関はありません。

☆いずれの探鳥会も悪天候でない限り実施します。
☆昼食、雨具、観察用具、筆記用具などをお持ちください。
☆問い合わせ 北海道自然保護協会 011-251-5465
10:00~16:00(土日、祝祭日を除く。)

鳥民だより

◆本の紹介(北海道野鳥愛護会顧問 藤巻裕蔵)◆

極東の鳥類32A 論文集 シマフクロウ
藤巻裕蔵 訳・編 極東鳥類研究会・美唄
絶滅の恐れのあるシマフクロウについて、主要な分布域の一部であるロシア極東では、分布や生息状況、生態、保護対策について研究されているが、その多くがロシア語である。本書は、これまでロシア語で発表された主要な論文・著書・報告書を収集し、和訳したものである。収録された文献の一部は「極東の鳥類」シリーズに既に掲載されたものが含まれているが、今回新たに和訳された著書・論文も収録されている。本書により、ロシア極東のシマフクロウ(北海道に生息するものとは別亜種)の分類、分布、生息環境・繁殖・食性などの生態、生息数などの具体的知見が得られる。この論文集から得られる知見は北海道のシマフクロウの研究・保護に役立つと思われる。札幌市内ではエコ・ネットワーク(北区北9条西4丁目エルムビル8階 TEL 011-737-7841)で販売している。

◆平成27年度野鳥写真展出展者・作品◆

入江 智一 ジョウビタキ
内山 英晋 ジョウビタキ、キビタキ
小堀 煌治 エゾムシクイ、ウソ
佐伯 武美 オオワシ、アオバト
漆崎 修 アオバト、キアシシギ
品川 睦生 カワセミ、キレンジャク
高橋 良直 ハクガン、アオバト
田中 陽 キレンジャク、ハギマシコ
田向 一彦 フクロウ、フクロウ
富川 徹 トウネン、クマガラ
中正 憲信 エナガ、クロツグミ
中村 隆 ヤマセミ、ジョウビタキ
早坂 泰夫 ハイイロチュウヒ、キバシリ
山田 清二 オオセグロカモメ
山田 甚一 イスカ(雄)、イスカ(雌)
吉中宏太郎 ユリカモメ、シマアジ

【新しく会員になられた方々】

先崎 理之(北広島市)
山室ゆかり(札幌市中央区)
池田亜樹子(札幌市南区)
島崎 敦(札幌市北区)
上坂 久・千幸・勇貴(札幌市東区)
田中さちよ(岩見沢市)
小島 俊幸(石狩市)
原口 泰一(千歳市)
菱谷紀久子(札幌市厚別区)
武田 規子(札幌市北区)

〔北海道野鳥愛護会〕 年会費 個人 2,000円、家族 3,000円(会計年度4月より)

郵便振替 02710-5-18287

〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465

HPのアドレス <http://www.aigokai.org>